

雜 報

人 事

叙從三位	正四位勳三等	上坂 熊勝	岡山醫科大學教授正五位	生沼 曹六
		(六月一日)	岡山醫科大學教授正五位勳四等	安藤 晝一
任學習院長	正三位勳一等	荒木 寅三郎	岡山醫科大學教授正五位勳四等	泉 伍朗
叙高等官一等			岡山醫科大學教授正五位	稻田 進
賜一級俸	學習院長	荒木 寅三郎	從三位勳三等	舟岡 英之助
	學習院長正三位勳一等	荒木 寅三郎	從四位勳三等	加藤 誠治
特ニ親任官ノ待遇ヲ賜フ		(十月二十八日)	正四位勳三等	藤田 秀太郎
	岡山醫科大學助教授	北山 加一郎	從四位勳四等	坂田 快太郎
陞敘高等官六等		(十一月一日)	岡山醫科大學教授從五位	奧島 貫一郎
	天龍軍醫長兼分隊長 海軍軍醫大尉	木村 義雄	岡山醫科大學助教授從五位	中川 小四郎
兼補韓崎軍醫長分隊長		(十一月一日)	陸軍三等軍醫正從五位勳五等	銀羽 玪治郎
	從五位勳五等	池上 馨一	陸軍一等軍醫正七位 勳五等功五級	高月 三郎
	從五位	西川 義英	陸軍二等軍醫正正六位 勳五等功五級	白神 盛雄
叙正五位			陸軍三等軍醫從五位勳五等	丹羽 浩
叙從五位	正六位	金子 廉次郎	海軍造兵中佐從五位勳五等	井手 又藏
	從六位勳四等	長田 祖村	海軍軍醫少佐正六位勳五等	那須 四郎
	從六位	田部 浩	岡山醫科大學附屬醫院 藥局長正六位	赤井 左一郎
	從六位	皆見 省吾	岡山醫科大學教授正六位	津田 誠次
叙正六位		(七月十五日)	陸軍二等軍醫從七位 勳六等功五級	木村 靖
	正五位勳三等	好本 節	陸軍二等軍醫從七位 勳六等功五級	森 富太郎
	正五位勳三等	田村 於兔	陸軍一等軍醫正七位勳五等	內田 金一郎
叙從四位		(八月一日)	陸軍二等軍醫從七位勳五等	佐藤 靜夫
	岡山醫科大學教授	奧島 貫一郎	陸軍一等軍醫正六位勳五等	大森 爲二
本俸六級俸下賜		(十一月七日)	正六位	麻植 巨一
叙從七位		神原 亨	陸軍三等軍醫正正六位勳六等	白玖 壽雄
		(八月一日)	鐵道醫從六位	山口 龍契
岡山醫科大學教授從四位勳三等	八木田 九一郎		岡山醫科大學教授正七位	畑 文平
岡山醫科大學教授正四位勳三等	數波 重治郎		岡山醫科大學教授從六位	緒方 益雄
岡山醫科大學教授正五位勳四等	好本 節		岡山醫科大學教授從六位	遠藤 中節
岡山醫科大學教授正五位勳四等	田村 於兔		岡山醫科大學教授從六位	皆見 皆吾

岡山醫科大學教授正六位	田 部 浩	陸軍二等軍醫正八位	砂 田 善 平
岡山醫科大學教授從六位	鈴 木 稔	陸軍二等軍醫正八位	柴 田 剛 太
岡山醫科大學教授從六位	林 道 倫	岡山醫科大學助教授	林 香 苗
岡山醫科大學助教授從六位	關 場 代 五 郎	岡山醫科大學助教授從七位	武 田 俊 光
陸軍一等軍醫從六位	平 井 重 次 郎	岡山醫科大學助教授從七位	上 代 皓 三
從六位	廣 瀬 耕 一	岡山醫科大學助教授從七位	濱 崎 幸 雄
從六位	杉 山 榮	岡山醫科大學助教授從七位	筒 井 德 光
從六位勳六等	丸 川 千 基	岡山醫科大學助教授	小 田 大 吉
陸軍二等軍醫從七位勳六等	黒 住 靜 太	陸軍三等軍醫正八位	小 野 逸 士
陸軍二等軍醫從七位勳六等	佐 治 豊	陸軍三等軍醫正八位	江 原 猪 知 郎
陸軍二等軍醫從七位勳六等	松 山 咲 二	陸軍三等軍醫正八位	鷲 海 喬
陸軍二等軍醫從七位勳六等	淺 沼 登 眞 太	陸軍三等軍醫正八位	梶 谷 尙
陸軍二等軍醫從七位勳六等	草 野 春 平	陸軍三等軍醫正八位	小 坂 保
陸軍三等軍醫正八位勳六等	高 原 十 三 治	陸軍三等軍醫正八位	上 田 義 信
陸軍三等軍醫正八位勳六等	三 宅 昶	陸軍三等軍醫正八位	好 本 和 多 里
陸軍一等陸軍正七位勳六等	大 谷 顯 三	陸軍三等軍醫正八位	友 澤 昇
陸軍歩兵中尉正七位勳六等	藤 原 鐵 太 郎	陸軍三等軍醫正八位	阿 部 三 郎
陸軍二等軍醫從七位勳六等	石 戸 巍	陸軍三等軍醫正八位	岡 元 一
海軍軍醫大尉正七位勳六等	高 橋 規 浩	陸軍三等軍醫正八位	吉 中 佳 辰 夫
陸軍二等軍醫從七位勳六等	延 岡 靜	陸軍三等軍醫正八位	難 波 謙 治
陸軍二等軍醫從七位勳六等	河 原 杏 平	陸軍三等軍醫正八位	藤 原 角 一
陸軍二等軍醫從七位勳六等	森 谷 柳 太 郎	陸軍三等軍醫正八位	八 木 忠 亮
陸軍三等軍醫正八位勳六等	西 崎 忠 平	陸軍三等軍醫正八位	小 堀 文 哉
陸軍三等軍醫正八位勳六等	須 之 内 權 三	陸軍三等軍醫正八位	池 井 柳 藏
陸軍一等軍醫正七位	平 井 義 男	陸軍三等軍醫正八位	關 藤 忠 雄
陸軍一等軍醫正七位	林 昌	陸軍三等軍醫正八位	寺 岡 森 太 郎
陸軍一等軍醫正七位	大 田 原 英 一	岡山縣吉備郡服部村長	長 野 健 次 郎
陸軍一等軍醫正七位	三 宅 伯 一 郎	岡山縣防疫醫	友 廣 利 親
防疫醫正七位	河 田 豊 章	岡山醫科大學附屬醫院藥劑手	芦 澤 米 吉
衛生技師從七位	喜 多 島 健 麿	岡山醫科大學附屬醫院藥劑手	妹 尾 誠 太 郎
專賣醫	多 田 繁	岡山醫科大學附屬醫院藥劑手	吉 田 留 次
岡山醫科大學助教授正七位	關 正 次	岡山醫科大學附屬醫院藥劑手	岩 崎 成 章
岡山醫科大學助教授正七位	田 川 蟬 太 郎	岡山醫科大學助手	吉 田 智 一
陸軍二等軍醫從七位	高 越 澤 太 郎	岡山醫科大學助手	菊 澤 隆 尙
陸軍二等軍醫從七位	木 村 亨	岡山醫科大學助手	佐 野 進

岡山醫科大學助手 玉川 忠 太
 岡山醫科大學助手 河村 九十九
 岡山醫科大學助手 渡邊 眞 澄
 岡山醫科大學助手 中井 良 平
 岡山醫科大學助手 吉本 精 一
 大 饗 恭 三
 横山 龜 雄
 菊池 於菟太郎
 船石 保 太
 井阪 爲 則
 杉山 鐵 太郎
 河野 稻 太郎
 石本 於義 太
 脇本 正 夫
 河本 眞 吾
 陸軍三等軍醫 西山 九右衛門
 陸軍二等軍醫從七位勳六等 橋本 政 一
 陸軍二等軍醫從七位勳六等 伊賀 久 家
 陸軍三等軍醫正八位勳六等 岡山 愛 三
 陸軍一等軍醫正七位勳六等功五級 大石 三 雄
 陸軍三等軍醫正八位 田村 節 夫
 陸軍三等軍醫正八位 大石 仁 八
 陸軍三等軍醫正八位勳六等 近藤 盛
 得能 孝 平
 陸軍三等軍醫正八位 川崎 舍 正 造
 陸軍二等軍醫正八位 浮田 勝 造

陸軍三等軍醫正從五位勳四等 漆原 亮 平
 陸軍三等軍醫正八位 水原 清
 陸軍三等軍醫正八位 今田 立 彦
 大林 森 次郎
 陸軍一等軍醫正七位勳六等 吉 馴 秀 雄
 陸軍三等軍醫正從五位勳四等 三木 德 次
 陸軍三等軍醫正八位 三宅 誠 一
 陸軍三等軍醫正八位 瀬戸 忠 治 郎
 陸軍三等軍醫正八位勳六等 新庄 勝 清
 陸軍一等軍醫正正五位勳三等 難波 秀 太郎
 陸軍三等軍醫正八位勳六等 山本 贊 亮
 陸軍二等軍醫從七位勳六等 浅山 幡 太郎
 陸軍二等軍醫正從五位勳四等 重富 貫 二
 陸軍三等軍醫正八位 辻岡 新 作
 陸軍二等軍醫從七位勳六等功五級 宮原 修 藏
 陸軍二等軍醫從七位勳六等 富永 直 俊
 陸軍二等軍醫正正五位勳三等功四級 上山 喜 明
 海軍軍醫大尉正七位勳五等 伊藤 不 羈 夫
 從六位 石田 堅 三 郎
 長崎醫科大學教授從五位 辻 綠
 陸軍二等軍醫從七位勳六等 有吉 憲 治
 陸軍三等軍醫正八位 河村 五 十 鈴
 陸軍三等軍醫正八位勳六等 兎本 宇 三 郎

昭和三年勅令第百八十八號ノ旨ニ依リ大禮記念章ヲ授與セラル (三年十一月十六日)

○田中文男君 文部省より海外に出張を命せられたる岡山醫科大學長田中文男君は歐米の視察を終へ西伯利亞を経て本月 18 日無事歸朝せられたり

○奥島貫一郎君 文部省より海外に出張を命せられたる岡山醫科大學教授奥島貫一郎君は本月 21 日無事歸朝せられたり

○池上馨一君 文部省より在外研究生を命せられ歐洲に留學中なりし岡山醫科大學助教授池上馨一君は本月 14 日無事歸朝せられたり

○長野寛治君 豫て岡山醫科大學解剖學教室に於て研究中なりし同君は今般東京北里研究所に轉勤せられたり

○池田 保君 は豫て岡山醫科大學に於て研究中なりしか今般神戸市旗塚通七丁目一番地に池田病院を建築し本月 10 日より診療を開始せられたり

○尾藤 太君 は豫て倉敷市中央病院婦人科に勤務し居られしか今般同院を辭し神戸市西灘岩屋に於て開業せられたり

○矢谷 義夫君 は今般本縣眞庭郡久世町に移轉從來の通り診療に従事せらる

土岐龍三君逝く 君は昨年 3 月岡山醫科大學を卒業し同學柿沼内科教室に勤務し居られしが近來健康を害し靜養に力められしも其效なく去月 30 日遂に遠逝せられたり洵に痛惜に堪へず謹みて茲に弔意を表す

佐藤龜一郎君逝く 君は明治 27 年第三高等學校醫學部を卒業し岡山縣病院内科に勤務し後本縣眞庭郡落合町に於て開業し居られしか去月 31 日急病にて逝去せられたりと洵に哀悼に堪へず謹みて茲に弔意を表す

◎安藤教授在職 15 年記念祝賀會 岡山醫科大學教授安藤晝一君は大正 3 年 8 月岡山醫學專門學校教授として來任せられて今茲 15 年に相當せるを以て同教室に於て直接指導を受けたる有志者相謀り門下生 98 名より寄附金を募り本月 23 日岡山醫科大學第一講堂にて記念祝賀會を開催せり其「プログラム」は左の如し尙ほ此參集を機とし記念集談會及び産婆會を開催せしに出席者 3 百餘名にて非常の盛會なりし

プログラム

産婆會 午前 9 時開會

- | | |
|----------------------|-------------|
| 1. 初生兒沐浴の臍斷端治癒に及ぼす影響 | 湊 次 郎 君 |
| 2. 臍帶切斷に適當なる時期 | 藤 川 良 雄 君 |
| 3. 分娩後授乳開始の時期 | 太 田 德 次 郎 君 |
| 4. 乳汁分泌の催進法及び抑制法 | 八 木 齊 君 |
| 5. 乳汁分泌催進法 | 齋 藤 治 君 |
| 6. 分娩誘發法に就きて | 熊 谷 藏 之 允 君 |
| 7. 尿を以てする確實なる妊娠早期診斷法 | 北 義 保 君 |
| 8. 臨牀瑣談 | 赤 堀 淳 太 郎 君 |
| 9. 支那上海に於ける産婆と醫師 | 向 谷 準 一 郎 君 |
| 10. 分娩に關する活動寫眞數種 | |

記念祝賀會 午後 1 時開會

- | | |
|-----------|-------------------|
| 1. 開會之辭 | 結 城 英 夫 君 |
| 1. 祝 辭 | 門下生總代 關 場 代 五 郎 君 |
| 1. 記念品贈呈 | |
| 1. 田中學長祝詞 | |

1. 祝電披露

1. 安藤先生御挨拶

1. 會計報告

1. 閉會之辭

八 木 齊 君

右の式終りて直ちに左の記念集談會に移る

1. 哺乳獸の性週期及び人腔粘膜の週期性變化

池 井 柳 蔵 君

2. 腦下垂體前葉「ホルモン」及び其臨床上の應用

北 義 保 君

3. 「ビタミン」と生殖機能との關係

正 岡 旭 君

4. 基礎新陳代謝と生殖機能との關係

結 城 英 夫 君

5. 脱脂と月經

齋 藤 治 君

6. 既往 15 箇年間に於ける我教室の回顧

安 藤 畫 一 君

7. 分娩に關する活動寫眞

右終りて午後 6 時より後樂園内浩養軒に於て安藤教授及び同夫人を主賓として懇親會を開催せしに出席者 50 餘名にして是亦非常の盛會なりし

◎學位授與 岡村鼎二君は論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し居られしが去 10 月 21 日の教授會を通過し本月 7 日醫學博士の學位を授與せられたり其主論文及び參考論文は左の如し

主 論 文

炭水化物新陳代謝ニ於ケル膽汁酸及ビ「アドレナリン」ノ態度ニ就キテ

其 1. 膽汁酸ノ體內過不足時ニ於ケル血糖量ニ就キテ (昭和 3 年生化學會雜誌第 5 卷第 1 號ニ發表)

其 2. 膽汁酸ノ体内過不足時ニ於ケル副腎ノ「アドレナリン」含有量ニ就キテ (昭和 3 年生化學會雜誌第 9 卷第 2 號ニ發表)

參 考 論 文

1. 種々ナル内分泌物質ノ膽汁酸排泄ニ及ボス影響ニ就キテ (昭和 4 年 12 月岡山醫科大學業府第 1 卷第 3 號ニ發表ノ豫定)

2. 種々ナル植物神經毒素「アルカロイド」輕金屬鹽ノ膽汁酸排泄ニ及ボス影響ニ就キテ (昭和 4 年 12 月岡山醫科大學業府第 1 卷第 3 號ニ發表ノ豫定)

3. ニューギニア産「はりもぐら」ノ雌性生殖器ニ就キテ (昭和 2 年解剖及ビ發生學雜誌第 84 卷第 12 號ニ發表)

4. 卵巢結核ニ就キテノ知見補遺 (昭和 2 年近畿婦人科學會雜誌第 10 卷第 5 號ニ發表)

5. 實驗的癌研究ニ就テノ知見補遺 (昭和 2 年京都府立醫科大學雜誌第 1 卷第 4 號ニ發表)

6. 要胎分娩ノ 1 例 (昭和 4 年 12 月近畿婦人科學會雜誌第 12 卷第 6 號ニ發表ノ豫定)

◎自然科學獎勵補助費 文部省より本年度の自然科學獎勵補助費を受けらるる左記諸君の研究科目は左の如し

岡山醫科大學

過敏症抗體の分離

教授 緒 方 益 雄

外 6 名

船員病並熱帯病研究所

微生物に由来する熱帯病及び亞熱帯病の研究

所 長 桂 田 富 士 郎

外 3 名

◎岡山醫學會第 333 回通常會 は本月 21 日開會の筈なりしが都合により流會し來 12 月 19 日午後 4 時より岡山醫科大會に於て開會することとなれり

◎筒井助教授通信 (10 月 27 日 ライブチヒ 發 畑教授宛)

其後は御沙汰御海容下さい。秋も深く寒さが追々増して來ましたが、皆様益々御健勝の事とお喜び申上げます。次に小生相變らず無事、Holland の學會から Belgien, Rheinland の旅を終へて 9 月末 Leipzig へ、歸りました。

學會は Member 千人以上、その外に多數の家族が加はつたので大變賑やかで面白くありました。Allg Program と Wissenschaftl, Prog とあつて社交的會合や見物と學問とが半々にもられて居ました。見物の方は目先きが變るのであきませんでした。色々の會や演説は 9 日もあると終にはいやになつて來ました。學會で最も深く感じた事は語學の必要でした。獨佛英が相當自由に出來なくては國際的會合に於いては一人前として通用しない事を體驗しました。苦い又よい經驗でした。Ausflug の時 Axenfeld 親子が私達の Auto に乗り組まれ老人は私の隣に席を取られたので計らずも陪乗したわけです。來年の學會に日本から招かれた事を大變喜んで居りました。岡山は大阪から遠くないから寄れるだらう等と云つて居ました。日本滞在は 4 週間だそうです。年の割合に仲々元氣でした。Leiden 大學の Klinik のとても立派なモダンな新築には感心しました。獨乙の大學にも一寸見られない完備ぶりでした Van der Haeve, Zeeman 等和蘭も仲々えらい人物が居るのに驚きました。演説の中で面白いと思つたのは一勿論全部聞いたわけではありませんが一 Mogitot の Glaukomtheorie と Marchesani と v. Szily の Sympat, Ophth, Barâquer の Cataraktop 等でした。Mogitot によれば Gl は全身病に於ける一つの眼病で Ödem を以て説明し、Capillarenwand の Störung に原因を求めて居りました。Drucksteigerung 等は大した問題とせず、Therapie も Op よりも allg, medikamentöse Behandlung に多くを期待して居ります。Gl は恐らくこちらの方向に進むのではないかと思はれました。Symp. Op は Marchesani は Bakterieneiweiss の Anaphyraxie を以て説明し、v. Szily は Metastase (血行による) を以て説明し面白い場面を呈しました。Marchesani と云ふのは若い男ですが仲々えら者らしく將來有望と思はれました。反覆眼内に細菌を入れる時第 2 眼に S. O を起すが第 1 眼のは Bakterien の Toxinwirkung による變化 + Anaphyraxie による變化であるに反して第 2 眼の Befand は rein Anaphyraxie によると云ひます。Arch. f. A. Bd. 100, 1101 に原著があります。v. Szily は Auge を取り去つた所へ Bak を入れても、又 Ohrvenen に Bak を入れても起る、之は Bak の Metastase だと云ひます。同教室の伊賀文範君がやつた仕事で Kl. M. bl に出て居ます。v. Szily の Herpes virus による實驗、Sehnerv を傳はつて Auge から

Augeへの説は今彼自身によつて動搖しつつある如く見られました。其他のくだらぬ事共は「中眼」に書きましたから御覽下されば幸です。

次の學會は4年後スペイン Madridと決定しましたが、その次は日本でやれと云ふ話は私等も大分聞かされた程で多分來るのではないかと思はれます。尙ほ今度の學會で International Ophth-Ratの1人として小口教授が推薦されました。多分日本人としては最初の人だらうと思ひます。

Rembrandtの畫, Scheveningenの海岸等御承知の和蘭風景も中々よいものでした。Rheinの旅では Bonnと Heidelbergと Augenklinikを訪ねました。Römerは居られず Dr. de Deckが Bonnでは案内してくれました。「メス」は勿論「ピンセント」其他總ての Operations instrumentが Rostfreiの Stahlだと云つて自慢して居ました。Wogenmannは相變らず元氣で急行列車式の回診と Operationを見ました。病室内に Krankeを整列させて河本先生式にズーツと一通り見ます。勿論手は一度も洗はず次から次へととても早く見て次の室へ。Opの早い事も感心で準備がいいので少しも待つ時間はありません。次から次へと一つの手術臺で1時間の中に Catarakt (1), Nachstarr (7, 此時は室を暗くして Künstl, Beleuchtung 其他は總て電燈を用ひず、明るい窓側で) Schiele 1. Tränenensnokの Exstirpat 2. Discision 2. Orbitaの Verletzung (Verbandwechsel 2) Trachom 3等が行はれました。Wiesbadenでは Müller u. Söhneの義眼製造を見ました。「ガラス」管から眼玉を作るのが中々面白くありました。

田中學長が23日に Wien, Münchenからの歸りに Leipzigに寄られました。久振りに岡山の話をつかひました。此春は病院全體にわたる大動搖があつたそうで、うるさかつた事と御察し致します。學長は11月4日 Berlin發日本へ歸られるそうでその頃又伯林へ遊びに行かうと思つて居ります。大熊君は Hamburgを引き上げて目下 Berlinに居ります。丁度手頃のよい合棒です。

私の仕事は相變らず遅々たるもので閉口して居ります。道具や動物の具合で1週間位遊ばされる事があるのに弱ります。10月から中島君の隣に引越して來たので殆ど毎日顔を合はせて居ります。同君も至極元氣で Photo chemieで Künstliche Netzhautに就いて面白い Arbeitをやつて居られます。學會へ行つてから何だか Magitotの處で Glaukomをやり、Barraquerの所で Cat Opを見て歸りたい様な氣がして居ります。併しフランス語やスペイン語を知らないで兎に角茲で1年は暮し餘裕があつたら行かうかと思つて居ますが來年かさ來年の事で何ともはつきり申されません。唯そろそろ文部省へ出さねばならぬ追加國にスペイン、アメリカを加へ様かと思つて居ります。教室の諸氏に宜敷御傳へを願ひ上げます。

末筆乍ら皆様の御健康を祈り上げます。(原文のまま)